

# 後輩たちへのエール！ その10

2020年5月8日

## 変化を受け入れること

◇今回は、横田良子さん（シンガーソングライター）のエールです！

はじめまして、横田良子と申します。

私は平成13年度に関高校を卒業し、音楽教師を目指して、国立音楽大学ピアノ科へ入学しました。現在はピアノ弾き語りのシンガーソングライターとして活動しています。

こうして振り返ってみても、卒業から19年もの月日が流れていることが信じられません。私の人生において、関高校で過ごした3年間は、今の私を形成する為の特別な期間であり、今でも鮮明に思い出せるほどの濃い毎日であったからです。

中学生の頃、関高校吹奏楽部の定期演奏会を見て、ここで音楽をしたい！と入部(入学)を心に決めました。入学してからの3年間は、高井律子先生という最高の指導者のもと、朝から晩まで吹奏楽に没頭、音楽に対する姿勢や、表現する喜びなど、大切なことを沢山教わりました。

しかし、進学校でもある関高校です。3年生になるにつれ、受験に向けて必死に勉強する同級生と、音楽へひたすらに時間を費やす自分を比べ、焦りを感じることも多くありましたが、仲間と作り上げる音楽の素晴らしさから、自信と熱意が湧き上がり、私の背中を押してくれました。

夢いっぱい上京し、自分を信じて決めたはずの音大生活でしたが、思わぬ壁に葛藤の連続でした。これまで自分を表現する手段であった音楽ですが、大学ではその音楽に点数をつけられてしまうのです。試験やコンクール出場の為に弾かなければならないことも多く、音楽が楽しめなくなった自分がいました。奨学金に加え、高い学費を出してもらって進学したにも関わらず、音楽教師を目指すどころか、音楽自体に気持ちが入らず、苦しみ悩みました。

そんな私に新しい景色を見せてくれたのが、大学1年で入会した早稲田大学のアカペラサークル「Street Corner Symphony」でした。声だけで音楽を奏でるアカペラに魅了され、授業やレッスンの隙間をぬって、歌うことに没頭していきました。さらに、自分のピアノに合わせ歌う弾き語りスタイルでもライブ活動を重ね、かつて感じていた音楽の楽しさを、歌に求めるようになっていました。

大学卒業を控え、歌への想いを捨てきれないまま進路に悩んでいた頃、地元である美濃市のイベント、美濃和紙あかりアート展実行委員会からイベントでのライブ出演依頼が入ります。願ってもない話です。記念に何か形を残したいと、故郷への想いを「灯」という楽曲へ書き下ろし贈ったところ、それを聴いた多くの方々からの応援を受け、以来現在までの15年間、イベントのテーマソングとして大切に聴いていただけるようになりました。シンガーソングライターとして歌っていこうと心に決めた大きなきっかけです。

高校在籍時には考えてもみななかった形で音楽に携わっていること、そこに後悔はひとつもありません。進む道に迷いが生まれた時、自分の周りの景色に目を向け、見渡してみてください。自分の置かれている環境を見つめ直してみてください。もし、今まで見た事がない景色が広がっていたら、それは大きなチャンスです。

新型コロナウイルス感染症により、登校禁止の日々が続いている在校生の皆さん。今まで当たり前にあった日常が失われ、戸惑いや不安を多く抱えていることでしょう。そして、再開した際に、思い描いている生活がそのまま戻ってくるとは限りません。高校生活や授業の在り方、受験までの道のり、更には世の中そのものが様々に変化していくことで、皆さんの将来への展望や価値観が揺れ動く事もあるかもしれません。

変化していく事は、決して諦めではありません。高校生活で思い描いていた姿が必ずしも全てでは無いのです。どうか皆さん、それぞれの今を、精一杯生きてください。そして変わりゆく景色を楽しんでください。自らの意志で道を選択していくことが出来たなら、それがどんな道であろうと、かけがえのない未来へ繋がっています。

1日も早い収束と学校再開、そこに皆さんの笑顔があることを心から願っています。



写真1：吹奏楽部の定期演奏会にて



写真2：早稲田大学アカペラサークルにて



写真 3 : 美濃和紙あかりアート展にて